

日本養護教諭教育学会設立 20 周年記念誌作成に寄せて



理事長 三木 とみ子 (女子栄養大学)

日本養護教諭教育学会は、「全国養護教諭教育研究会」として 1992 年 11 月に設立し、1997 年「日本養護教諭教育学会」と改称され、今年設立 20 周年を迎えます。この間、学会役員の方々の熱意ある運営と会員のご協力のもと大きく成長してきました。過日の第 20 回学術集会における「歴代理事長によるミニシンポジウム」での各理事長の報告や「展示」等からこれまでの学会の成長のあゆみをあらためて実感した会員が多いと思います。

学会設立時は会員数 46 名で発足しましたが 20 年後の現在 704 名と約 15 倍となっています。会員は養護教諭養成関係者、現職養護教諭、退職養護教諭、その他の関係者で構成しています。その他の中には養護教諭教育行政関係者も含んでおり、「養成」、「行政」、「現職養護教諭」が主な会員構成と言えます。

今年、昭和 16 年に我が国の養護教諭が教育職員として職制が確立し、職務を「児童の養護をつかさどる」としてスタートを切ってから 70 年になります。この「養護をつかさどる」の解釈を「健康の保持増進する全ての活動」とされ（昭和 47 年保健体育審議会答申）、以後、養護教諭は長きにわたって「養護をつかさどる」を追究し、実践の知として積み重ねています。

養護教諭の名称を冠としている本学会が記念すべきこの時期に設立 20 周年となり、成人を迎えました。これを期に今一度、時代をこえて変わらない価値ある「養護をつかさどる」を追究しつつ時代の変化に伴う諸課題に柔軟に対応する必要があります。

社会や今後の教育動向も変化しています。例を挙げれば、50 年振りに改正された学校保健安全法、教員の資質向上のための教員養成の修士レベル化、養成カリキュラム、養護教諭定数改善等々養護教諭の取り巻く環境は刻々と変わりつつあります。これらの動きに鋭いアンテナを立て学会としてなすべき役割を果たさなければならないと考えます。

本学会として、現職養護教諭の実践を基軸としてその価値や養成上の課題等を研究的に究明し、学術的論文とする作業をする必要があります。さらに、これらの蓄積をもとに学会として学問体系化し「養護学」とする責務があると考えます。

ここに、20 周年記念事業後藤実行委員長のもと様々な事業が企画されました。20 周年のあゆみの展示、歴代理事長による記念ミニシンポジウム、養護教諭の専門領域に関する用語の解説集改訂版の発行、そして記念誌の作成等々です。

周年の節目を迎えた今、会員一人一人が学会設立の原点に返ることにより、あらためて本学会員である所属観とアイデンティティを確かめることにつながるものと考えます。

学会記念誌を発刊するこの機会に本学会の担うべき役割を原点に戻って確認し今後の本学会のさらなる発展を目指し努力したいと思います。